

News Letter

(財)集団力学研究所 No. 53 2010.9.13

ホームページ <http://www.group-dynamics.org/>

所長就任のご挨拶

所長 杉万俊夫 (京都大学教授)



本年4月より(財)集団力学研究所の所長を務めることになりました。わが国の集団力学の草分けであり、私の恩師でもある三隅二不二先生が初代所長として31年(1967-1998年)の長きにわたって、研究所の創設と発展に尽力されました。それを受けて、大先輩の安藤延男先生(1998-2006年)、すぐ上の先輩の吉田道雄先生(2006-2010年)が所長を歴任されました。第4代の所長として、集団力学研究所のさらなる発展を期して全力を投入する所存です。よろしくご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「優れた理論こそ、最も実践的である」---- これは、集団力学の創始者クルト・レヴィンの言葉です。レヴィンは、この精神に則り、企業組織、コミュニティ、学校等でアクションリサーチ(実践研究)を展開しました。そもそも人間の集団や社会を研究しようとすれば、研究者がいかにか第三者、外部者を装っても、研究対象の集団や社会と研究者の間には自ずと相互作用が生じてしまいます。そうであれば、もっと前向きに「当事者と研究者の協同的实践」を旨とする学問があつていいはずで、この協同的实践を目指す学問こそ、集団力学(グループ・ダイナミクス)です。

では、当事者と研究者の協同的实践において、研究者の役割は何でしょうか。それは、現場の言説空間を豊かにすることです---- 平たく言えば、現場で飛び交う言葉を豊かにすることです。私たちは、物事を考えるにつけ、それを人に伝えるにつけ、言葉を使います。その言葉が豊かになれば、思考もコミュニケーションも豊かになるはずで、具体的には、研究者は、学問的な概念や理論(という言葉)を、わかりやすく現場に持ち込み、現場の言語エネルギーを豊かにするのが任務です。その言葉には、そのまま口にするか否かは別にして、数式のような数学言語や、化学反応式のような記号言語も含まれます。

このような言語を重視する立場は、20世紀中頃に起こった大きな思想的転回を反映しています。それは、「言語論的転回」と呼ばれています。それまで、言語は、外界の事実を描写する絵具と考えられてきました。しかし、言語論的転回は、そのような言語観を否定し、言語を壮大な社会的運動として捉える視点を打ち出しました。私たちは、「言語ゲーム」という壮大なゲームの中に織り込まれているのだ---- この発想への切り替えが、言語論的転回です。ちょうど野球ゲームをしている人にとって、

ボールを打ったら走っていく場所は「一塁」であり、「一塁手の捕球より走者の足が早ければセーフ」です。そんな当たり前の定義やルールがなければ野球ゲームは成り立ちません。実は、私たちの日常生活も同じなのです。目の前にあるのは「パソコン」である、「パソコンは（たとえ思い通りに動いてくれなくても）手荒にたたいたりするものではない」……このような定義やルールがなければ、パソコン・ゲーム（たとえば、パソコンを使って仕事をするゲーム）は成り立ちません。「パソコン」も言葉、「手荒にたたいたりするものではない」というルールも言葉です。パソコン・ゲームは、言語ゲームの一部です。

少々、話が難しくなっていました。では、言語論的転回によって、集団力学はどのように変化するのでしょうか。それは、私の恩師である三隅先生の時代と私の時代を分かち違いを説明することになります。三隅先生の時代の集団力学は、行動科学とも呼ばれたように、客観的法則を求めようとしました……有名な P-M 理論も客観的法則と考えられていました。それは、基本的に、物理学や生物学のような自然科学の法則と同じものでした。

でもどうでしょうか。学問ゲームを含めてすべてを言語ゲームと捉えるならば、どんな理論（という言葉）も絶対的とは言えなくなります。ちょうど、子どもの野球が三角ベースから四角ベースに変わるとルールも変わるように、今あるルールが絶対唯一のルールなどとは言えなくなります。むしろ、私たちが当たり前に行っているルール、当たり前に行っているがゆえに自覚すらしない暗黙のルール、それをあぶりだすこと、そして、必要であれば、新たなルールに変換していくこと、これが重要になってきます。集団力学の概念や理論も、「当たり前」をあぶりだし、新しい「当たり前」を探求することに貢献しなければなりません。

三隅先生の時代との違いを述べましたが、三隅先生の時代と変わらぬことも忘れてはなりません。それは、研究者が現場に飛び込むという実践的な姿勢です。ほんの一例ですが、三隅先生や大先輩が、長崎の三菱造船所や福岡の西日本鉄道で展開された安全推進運動は、私の世代にとっても貴重な手本です。今後も、企業組織はもちろん、学校、病院、NPO などの組織、あるいは、コミュニティでも、当事者との協同的实践研究を推進する所存です。

三隅先生から継承すべきもう一つは、国際性です。三隅先生の国際的な活動のおかげで、私たちは学生のころから、世界で一流の研究者と接することができました。三隅先生が海外に乗り出された時代は、敗戦国の人間という重圧が色濃く残っていた時代、また、経済的にも1ドルが360円もした時代でした。それに比べれば、今の私たちは本当に恵まれています。ここで国際化を目指さないとすれば、それは怠惰以外の何ものでもありません。欧米諸国はもちろん、中国、韓国をはじめとするアジアの諸国、また、遠くアフリカをも視野に入れた国際的共同研究を推進していきたいと思えます。

最後に、少々実務的な、しかし、重要な事項についても触れておかねばなりません。それは、現在進行中の公益法人の制度改革です。全国にあるすべての財団法人・社団法人をゼロベースで再点検し、本当に公益性を認められる法人にだけ「公益法人」の資格を認めようという改革です。その期間は5年間で、今年は2年目に当たります。財団法人集団力学研究所は、40年以上にわたって、集団力学という学問の発展に貢献してきた、公益性の名に恥じない法人です。ただ、細かな制度面の変更があり、新・公益法人への移行は、結構大変な作業です。現在、実務面の初仕事として、この作業に鋭意取り組んでいます。

「三木会」の報告

三木会（さんもくかい）は、異業種間交流の場として、毎月1回開催している「勉強会＋懇親会」です。どなたでも気軽にご参加いただけます（参加費無料、場所：集団力学研究所）。参加を希望される方は、ご案内を送りますので、集団力学研究所までご連絡ください。

本年4月からは、参加者の中から話題提供者を募り、1時間程度のスピーチをお願いすることにしました。その後、スピーチをネタに、1時間ほどビールでのどを潤しながら、自由な懇談会をもっています。

本年度第1回（4月20日）は、新所長の杉万が、これまでに行ってきた研究を紹介しました。若かりし院生・助手時代の研究（集団意思決定、緊急避難誘導法などの研究）から最近の研究（組織の安全文化、コミュニティの活性化などの研究）まで、10を超える研究プロジェクトを紹介しました。

第2回目（5月25日）は、若狭研究員による「ヒンドゥー教と日本」というタイトルのスピーチでした。インドの歴史、ヒンドゥー教の成り立ちに始まり、意外にもヒンドゥー教が日本文化の中に浸透している実例が紹介されました。たとえば、毘沙門天も、鬼子母神もヒンドゥー教から来ているそうです。

第3回目（6月17日）は、服部正氏が「町内会・自治会活動の現状」というタイトルでお話をされました。ご自身の住んでいる地区を例に、町内会長のなり手がいないことや、町世話人制度が廃止されたのに、町内会長の仕事はまだ行政の末端機関の意識が抜けきれないことなど、現状と問題点について詳細な報告がなされました。

第4回目（7月13日）は、菊池武成氏が「経営は論理、人は心で動く」というタイトルで経営者育成のヒントを話されました。経営者の要件は、論理的にクールな判断が出来、かつ人の心の痛みが分かることだと納得させられる内容でした。（黒宮時代・記）

新所員紹介

本年5月、新たに所員として黒宮時代が加わりました。早速、三木会を担当します。

自己紹介

この度お手伝いをさせていただくことになりました黒宮時代（くろみやときよ）です。UCLA在学中に米国連邦議員のインターンを3ヶ月経験し、日米のその違いを肌を感じようと、また政治に何らかの関与が出来るとすれば、ここしかないだろうと自民党に入りました。国際局に所属しましたが、ちょうど日本が右肩上がりの高度成長を遂げていき、貿易摩擦が議論を賑わした頃でしたので、日本の経済発展の歴史と一緒に体験した思いです。またアメリカの大統領選挙の仕組みを知りたくて3ヶ月大統領選を追ったこともありました。大勢のボランティアを動かす要素は何か、仕組みはどうなっているのか。4年に一度だけの体験をするために州の全域から集まってくる人々を候補者の事務所はどう扱っているのか。日本の選挙システムとの違いを研究しようと出かけました。集団力学を勉強していれば、もっと違った報告が出せたかなと思います。ここで研究所のお手伝いをさせていただきながら、リーダーシップの勉強を通して、今後の若い人たちと組織とのかかわりについて模索していきたいと思っています。事務の仕事も昔ながらの経理しか知らなかったもので、システム化された経理を楽しみながら、ついていっています。これから戦力になるよう、がんばっていきますので、よろしくお祈りします。

リーダーシップスクールのご案内 あなたと職場の安全と活性化を目指す「コミュニケーション・スキルアップ講座」

厳しい経済環境の中、人々が健康で安全な職場生活を送ることが強く求められています。そうした職場を創るためには、組織を構成するすべての人々のコミュニケーション・スキルを向上させることが欠かせません。それは管理/監督者にとってはもちろん、一般の方々にとってもリーダーシップを向上させるためにも必要です。本講座では、わかりやすい講義に実習を加えて、皆様のコミュニケーション力向上のお手伝いをします。

日程 平成 22 年 10 月 7 日 (木) 10:00~17:00
会場 西日本新聞会館 12 階 (株)西日本新聞社 会議室
受講料 10,500 円
申し込み 参加者と所属を添えてメールまたはファックスでお申し込みください
メール shurikiken@buz.bbiq.jp FAX: 092-713-1309
締切 9 月 30 日 (木)

春秋セミナーのご案内

集団力学研究所では、一般市民の方々に集団力学のおもしろさを知っていただくために「春秋セミナー」を開催しています。本年度の秋のセミナーは、以下の要領で開催します。どうぞ、ふるってご参加ください。

テーマ スーダン：遠くて遠い国
講演者 ハルツーム大学心理学部准教授
インティサー・アブナグマ・モハメド・サード (Intisar Abunagma Mohamed Saad)
日時 平成 22 年 11 月 19 日 (金) 開場 18:30 開演 19:00
場所 博多町屋 旧高橋邸 (福岡市博多区下呉服町 8-246)
参加費 無料
申し込み 参加者と所属を添えてメールまたはファックスでお申し込みください
メール shurikiken@buz.bbiq.jp FAX: 092-713-1309
締切 11 月 12 日 (金)

NEWS LETTER No.53 2010/9/13

財団法人 集団力学研究所

〒810-0001

福岡市中央区天神 1 丁目 4 番 1 号

西日本新聞会館 14F

TEL: 092-713-1308 FAX: 092-713-1309

<http://www.group-dynamics.org/>